

安全・安心・生きがい部会のまとめ

審議テーマ 「地域防犯活動の推進」

地域防犯活動を推進するための取組について、検討のまとめを報告します。

1 部会検討の経過（松世部会長）

地域防犯活動の推進について、区内の現状と課題を踏まえ、具体的な検討事項として「防犯活動をもっと知ってもらうこと」「青少年を犯罪の加害者・被害者にしないこと」に絞って、その解決に向けた取組を検討しました。

2 幸区内の現状と課題（荒井委員）

現 状

犯罪発生状況について

刑法犯認知件数が増加している。

平成 19 年：1,947 件、平成 20 年：2,045 件で前年比約 5% 増。

ただし、オートバイ盗や自転車盗などが数値を押し上げていて、空き巣やひったくりなどの生活に最も身近な犯罪は、減少している。

認知された刑法犯の約 3 分の 2 を窃盗犯が占めている。

（青少年においても、同様の傾向を示している。）

窃盗犯の主な内訳は、乗物盗（約 54%）、万引き（約 26%）。

地域での防犯活動について

地域において、防犯パトロール活動が行われている。

活動内容は、防火・防犯から児童の見守りまで多岐にわたっている。

課 題

防犯パトロール活動が見えづらい。

万引きが犯罪であるとの意識が希薄である。

店舗によっては、万引きを誘発する商品陳列になっている。

親や周囲の大人が青少年に対して無関心になっている。

近所の大人が青少年に声かけをして注意を行うべきだが、難しい。

青少年の相談窓口が知られていない。

3 部会のまとめ（三浦副部会長）

犯罪が起きてからでは手遅れであり、未然に防ぐ必要がある。そのためには、1 人ひとりの防犯に対する意識を上げていくことが重要となる。

防犯に対する意識を高めるには、まずは関心をもつことが必要である。

(取組1) 地域での防犯活動をもっと知ってもらおう

地域での防犯活動をより「見える」ものにしていくことが犯罪抑止力となり、同時に地域全体の防犯に対する意識を高めることになる。

具体的取組として、

犬の飼い主が犬を散歩させながらできる「わんわんパトロール」の取組を進める

<実施イメージ>

犬の飼い主にパトロール活動に協力してもらい、防犯活動を進める。それと同時に、地域の中で防犯についての情報共有を図っていく。

<実施に当たっての課題>

「わんわんパトロール」を効果的に行うには、実施主体、情報の入手、活動経費、連絡窓口などに課題があるので、これらの課題を解決して推進していく必要がある。

(取組2) 地域が青少年に関心をもち、青少年が犯罪の加害者・被害者にならないようにする

大人の意識を変えることが重要だが、できることから始める必要がある。まずは、青少年に対する地域の見守りを強化していくことで、青少年を犯罪から守っていく。

具体的取組として、

大規模小売店舗に対して、万引きしづらい店づくりを呼びかける

<実施イメージ>

店員からの声かけ、制服警備員による巡回、キャッチコピーの掲出を行う。地域の様々な活動団体と協力し、青少年への声かけ運動を展開する

<実施イメージ>

活動の中に見守りの視点を取り入れてもらうことにより、日常的な活動を声かけ運動につなげてもらう。

青少年が気軽に悩みなどを相談できる窓口をPRする

<実施イメージ>

困っている青少年に手を差し伸べられるよう、青少年だけではなく、保護者に対してもPRを強化する。

提言に向けた部会のまとめ

犯罪が起きてからでは手遅れであり、未然に防ぐ必要がある。そのためには、1人ひとりの防犯に対する意識を高めていくことが重要となる。

防犯に対する意識を高めるには、まずは関心をもつことが必要である。

(取組1) 地域での防犯活動をもっと知ってもらう

地域での防犯活動をより「見える」ものにしていくことが犯罪抑止力となり、同時に地域全体の防犯に対する意識を高めることになる。

具体的取組として、

犬の飼い主が犬を散歩させながらできる「わんわんパトロール」の取組を進める。

<実施イメージ> 犬の飼い主にパトロール活動に協力してもらい、防犯活動を進める。それと同時に、地域の中で防犯についての情報共有を図っていく。

<実施に当たっての課題> 「わんわんパトロール」を効果的に行うには、実施主体、情報の入手、活動経費、連絡窓口などに課題があるので、これらの課題を解決して推進していく必要がある。

(取組2) 地域が青少年に関心をもち、青少年が犯罪の加害者・被害者にならないようにする

大人の意識を変えることが重要だが、できることから始める必要がある。まずは、青少年に対する地域の見守りを強化していくことで、青少年を犯罪から守っていく。

具体的取組として、

大規模小売店舗に対して、万引きしづらい店づくりを呼びかける

<実施イメージ>

- ・店員からの声かけ、制服警備員による巡回、キャッチコピーの掲出を行う。

地域の様々な活動団体と協力し、青少年への声かけ運動を展開する

<実施イメージ>

- ・活動の中に見守りの視点を取り入れてもらうことにより、日常的な活動を声かけ運動につなげてもらう。

青少年が気軽に悩みなどを相談できる窓口をPRする

<実施イメージ>

- ・困っている青少年に手を差し伸べられるよう、青少年だけではなく、保護者に対してもPRを強化する。

地域防犯活動の推進

幸区区民会議

安全・安心・生きがい部会

部会まとめの報告

- 1 部会検討の経過
- 2 幸区内の現状と課題
- 3 部会のまとめ

1. 部会検討の経過

9～1月に5回の部会を開催。

幸区内の犯罪発生状況や防犯活動の取組状況などについて、現状と課題を整理。

具体的な検討課題を「防犯活動をもっと知ってもらうこと」「青少年を犯罪の加害者・被害者にしないこと」に絞って、どのような取組が必要かを検討。

今後の取組を2つまとめた。

2. 幸区内の現状と課題



区内の刑法犯認知件数



神奈川県警察ホームページ

区内の刑法犯認知件数

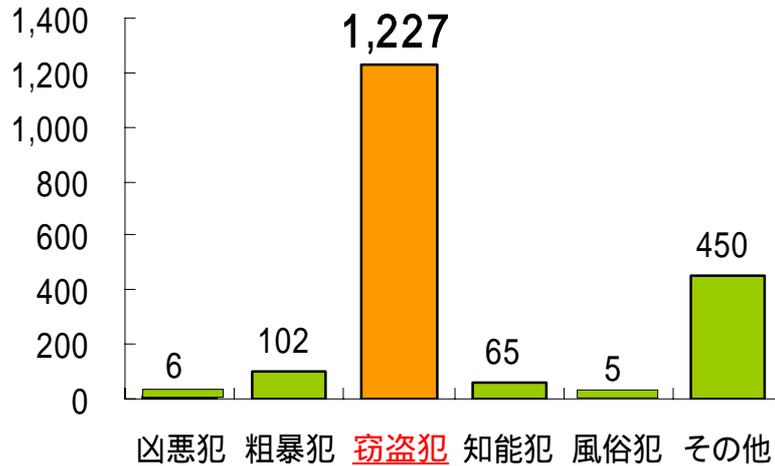
(平成19年と20年との比較)

| | | | |
|--------|------|------|-------|
| ひったくり | 49件 | 24件 | (51%) |
| 空き巣 | 74件 | 52件 | (30%) |
| オートバイ盗 | 92件 | 106件 | (15%) |
| 自転車盗 | 522件 | 584件 | (12%) |

神奈川県警察ホームページ

区内の刑法犯認知件数の内訳

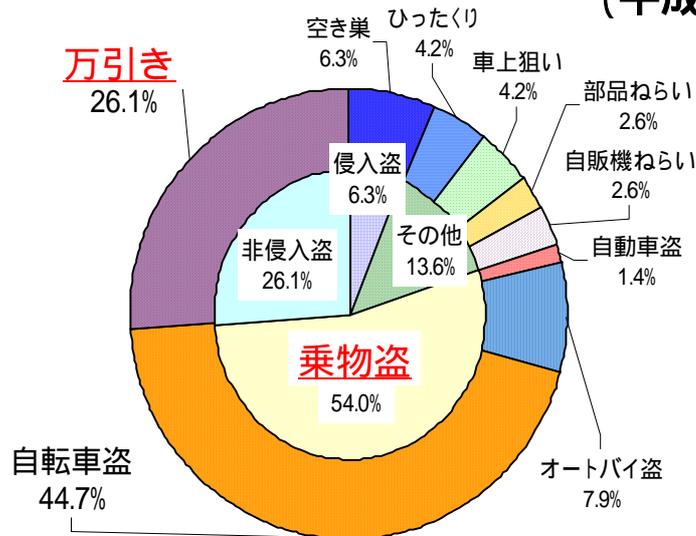
(平成18年)



神奈川県幸警察署生活安全課資料

区内で認知された窃盗犯の主な内訳

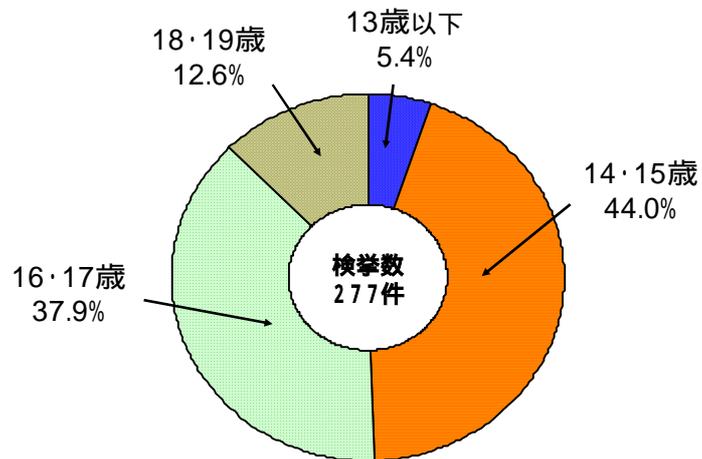
(平成19年)



神奈川県幸警察署生活安全課資料

区内で検挙された青少年の年齢内訳

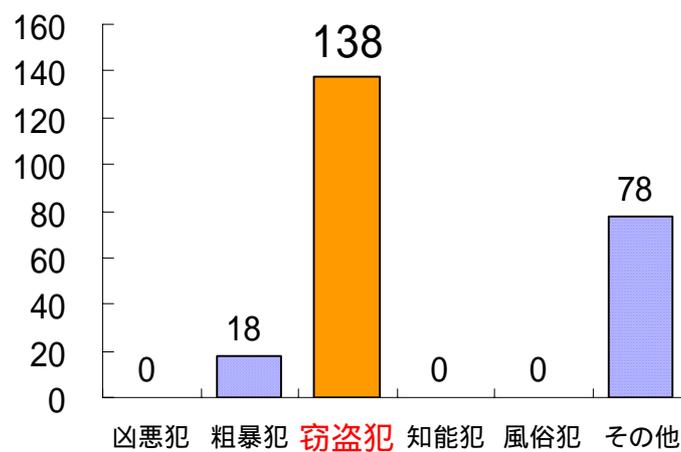
(平成18年)



神奈川県幸警察署生活安全課資料

区内で発生した青少年犯罪件数

(平成18年)



神奈川県幸警察署生活安全課資料

地域団体による防犯パトロール



地域団体による見守り活動



課題

防犯パトロール活動が見えづ
らい。

万引きが犯罪であるとの意識
が希薄である。

店舗によっては、万引きを誘
発する商品陳列になっている。

課題

親や周囲の大人が青少年に
対して無関心になっている。

近所の大人が声かけをして注
意を行うべきだが、難しい。

青少年の相談窓口が知られて
いない。

部会のまとめ

犯罪が起きてからでは手遅れであり、未然に防ぐ必要がある。そのためには、1人ひとりの防犯に対する意識を高めていくことが重要となる。

防犯に対する意識を高めるには、まずは関心をもつことが必要である。

部会のまとめ

(取組1)

地域での防犯活動を
もっと知ってもらおう

部会のまとめ

< 具体的な取組 >

- ・犬の飼い主が犬を散歩させながらできる「わんわんパトロール」の取組を進める

< 実施のイメージ >

- ・犬の飼い主にパトロール活動に協力してもらい、防犯活動を進める。それと同時に、地域の中で防犯についての情報共有を図っていく。

部会のまとめ

< 実施に当たっての課題 >

実施主体について

- ・どのような団体に中心になってもらうのか

情報入手について

- ・防犯に関する情報をどのようにして得るのか

- ・得た情報をどのようにして地域で共有していくのか

部会のまとめ

<実施に当たっての課題>

活動経費について

・活動に必要な経費をどのように調達
するのか

連絡窓口について

・犯罪一步手前の行為などを発見した
場合に、どこに連絡するのか

部会のまとめ

(取組2)

地域が青少年に関心をもち、
青少年が犯罪の加害者・被害
者にならないようにする

部会のまとめ

< 具体的な取組 >

- ・大規模小売店舗に対して、万引きしづらい店づくりを呼びかける

< 実施イメージ >

- ・店員からの声かけ、制服警備員による巡回、キャッチコピーの掲出を行う。

部会のまとめ

< 具体的な取組 >

- ・地域の様々な活動団体と協力し、青少年への声かけ運動を展開する

< 実施イメージ >

- ・活動の中に見守りの視点を取り入れてもらうことにより、日常的な活動を声かけ運動につなげてもらう。

部会のまとめ

< 具体的な取組 >

- ・青少年が気軽に悩みなどを相談できる窓口をPRする

< 実施イメージ >

- ・困っている青少年に手を差し伸べられるよう、青少年だけではなく、保護者に対してもPRを強化する。

部会のまとめ

犯罪が起きてからでは手遅れであり、未然に防ぐ必要がある。そのためには、1人ひとりの防犯に対する意識を高めていくことが重要となる。

防犯に対する意識を高めるには、まずは関心をもつことが必要である。